

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675900106
法人名	社会福祉法人 桃蹊会
事業所名	グループホーム サンライト
所在地	鹿児島県霧島市牧園町高千穂3617番地640 (電話) 0995 (78) 2320
自己評価作成日	令和6年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

霧島の自然に囲まれた環境の中にグループホームがあります。ホーム母体となっている福祉法人の介護保険関連施設、福祉施設、医療法人、病院などが同敷地内にあり相互関連しあっています。桃蹊会の運営理念である「あいさつと声かけは福祉の原点である」を基本に入居者様、家族、職員が信頼できる関係作りに取り組んでいます。現在はコロナ禍でご家族様との面会もできない状態ですが、オンライン面会、窓越しの面会など、コロナ感染状態に合わせて、できる事探しをしながら毎日のケアに取り組んでいます。入居者様はもちろんご家族様も職員もかわる人がみんな笑顔で過ごせる今日一日を支援できるように取り組んでいきたいと思えます。運営推進会議やホーム行事も書面での対応や中止にしておりますが、コロナ禍が終息して地域へ少しでも貢献出来るよう検討しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は霧島連山の麓、自然豊かな環境で特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に併設する2ユニットのグループホームで地域の医療福祉の拠点となっている。
- ・入居前からのつながりもあり同敷地内の母体医療機関が主治医となっており月1回の往診や状況に応じて随時往診が受けられる環境となっている。週1回の訪問看護と24時間医療連携体制が整い、健康面・医療面での安心感につながっている。
- ・管理者や職員間のコミュニケーションが良好で、法人全体で研修の充実が図られ、人材育成と確保、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。資格取得や法人内移動も含め働きやすい環境となっている。
- ・法人の運営理念である「あいさつと声かけは福祉の原点である」を基本に利用者中心のケアが実践されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	障害があっても一個人として尊重し本人が喜ぶサービスの提供ができるように考え、自分たちの理念を確認しながら取り組んでいる。理念に沿った目標をそれぞれが毎年立てて実践している。朝礼で理念の唱和を行っている。	職員で考えた地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、事務所前や廊下に掲示すると共に朝礼時に唱和して確認している、毎年、理念に沿った個人目標・事業所目標を掲げ、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の様子を分かって下さっている地域の理美容院に月1～2回来ていただき、検温、手指消毒、マスク着用等のコロナ対策をして頂いた上で散髪をして頂いている。文化祭を法人で行い地域との交流を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為現在は中止している。	運営推進会議メンバーからの情報や地域在住の職員が多い事から地域の情報を得ている。地域の美容院から訪問カットに来てもらっている。地域行事や法人行事での交流はコロナ感染防止のため、現在は中止されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	グループホームへの見学案内は内覧が出来ない為、検温、手指消毒、マスク着用、記録(体温、氏名、住所等)して頂き、外からの見学案内を行っている。託児所交流会は現在、新型コロナウイルス感染予防対策の為実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議に利用者家族や地域の代表者、市町村へサービス状況を文書にて報告している。今年度においては書類送付で開催とみなすことについて、市町村に確認をしたうえで実施しました。今後については様子を見ての開催となる。	コロナ感染防止対策で現在は書面での報告となっている。利用者状況や行事報告・事故・ヒヤリハット報告・研修報告等を行っている。参加者にアンケートも一緒に送付し意見や提案・情報等をいただき、職員間で共有して運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2か月に1回運営推進会議に利用者家族や地域の代表者、市町村へサービス状況を報告しそこで、意見をききサービスに生かしている。コロナ禍の中で昨年度に引き続き今年度も書類送付で開催とみなすことについて、市の担当者の指示の下、今後については様子を見ての開催となる。	運営推進会議資料にて情報提供や助言などを得ている。電話や出向いての相談、地域密着型グループホーム・小規模多機能連絡会等を通して連携、協力体制を築けるよう努めている。研修案内があり積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロをめざし、職員全体で取り組んでいる。具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアをめざしている。	指針・マニュアルを基に老人保健施設と合同で身体拘束廃止委員会を毎月開催し、勉強会を実施している。職員は具体的な行為等を正しく理解し、玄関施錠、スピーチロックも含め身体拘束ゼロを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては管理者、職員とも理解している。自分がされて嫌なことは言わない、しない等、無理な介護を強いられたいないように充分注意している。職員会議で定期的に虐待に関する内部研修報告があり、個々の意見を提出し再認識し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会があればできるだけ参加したいと考えている。内部研修、オンライン研修を受講しながら職員へ周知していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は家族に口頭、文書にて説明を行っている。重要事項説明書にて理解していただくように心がけている。遠方の方への入居後の説明が不十分にならないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在、コロナ対策の為、面会の制限（オンライン面会、窓越し面会（ピッチ使用））を実施しています。ご家族より、事前に電話での面会の日程を伺い調整を行い対応をしています。電話や面会時に日頃の様子をお伝えし、ご家族の不安や思いなどを職員へ気軽に話して頂けるようにお声掛けをさせていただいています。御意見箱を設置している。	利用者からは日常会話の中から、家族からは面会時や電話連絡時に意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望は申し送りノート等で共有し状況に応じて話し合いを持ち、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム独自の職員会議は会議録を回覧して意見や疑問は伺い用紙にて上申するようにしている。	管理者と職員のコミュニケーションが良好で、朝礼時やケア中でも気軽に意見や要望が出しやすい環境である。申し送りノートで共有し休憩時間の確保や業務の見直し、管理栄養士に相談して食材の工夫等、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議や常日頃、顔を合わせたときに職員に向けての励ましの声かけをしたり資格が取れるよう、勤務調整や情報提供を行っている。（今年度：介護支援専門実務研修 1名 介護支援専門員試験 1名実施）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部での研修（オンライン研修）は職員が勤務内に必要に応じて順番に参加できるようにしている。研修を受けた職員が研修報告（内部研修）を行っている。現在新型コロナウイルス感染予防対策の為研修はオンライン研修にて参加している。感染症予防対策をしながら実施できるように努めていく。内部研修としてeラーニングを活用しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在、新型コロナウイルス感染予防対策の為行えていない。職員間では、意見交換を勤務時間内に行っている。今後地域密着連合会に所属しているので研修や交流会に参加する機会がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では、ゆっくり話を傾聴する時間を持ち、また顔なじみになるように心掛け、ご本人が一番困っている事、望んでいる事を聞いたり様子で感じたりして話を良く聞けるよう時間をかけて行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・申し込みに来られた際、家族の困っていること、ご本人に対してどのように思っているのか。ご家族の方の正直な思いご希望伺い、又、利用されるまでの本人の状態や生活歴を知ることが出来るよう時間をかけ丁寧な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に見学に来て頂くようにしています。ご家族がご本人の気持ちを理解して、ご本人がグループホームを利用する事を承諾されているか確認が出来た上で、ご本人の気持ちに沿ったサービス提供が出来るように心掛けている。新型コロナ感染防止対策の為、検温、マスク着用、手指消毒、体調等の聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新型コロナ感染予防の為、現在食事作りは職員のみで行い、洗濯物などをたたむのを手伝って頂いています。（職員と一緒に頂いています）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、新型コロナ感染防止対策の為、電話で本人とお話しをして頂き協力を頂いている。オンライン面会や窓越し面会を実施しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナ感染予防対策の為、外出・面会は制限されている。お天気のいい日は敷地内の散歩を行っています。新型コロナ感染予防対策をしながら関係継続の支援の方法を検討していく。	電話の取り次ぎや手紙・ハガキの手伝い等の関係継続支援をしている。医療機関受診後に花見や自宅周辺へのミニドライブを実施している。コロナ感染防止対策で難しくなっているが、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングでの過ごし方を気の合う同士で過ごしていけるように配慮したりして、お互いに支えあえるように、又、トラブルが無い様に職員が工夫している。新型コロナ対策の為、ソーシャルディスタンスを保ち支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、新型コロナ予防対策により見舞や面会ができない状況であるため、入院先や他施設への電話連絡等により様子を伺う等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望や、今、困っていること等日常の様子や言葉の中から把握できるように傾聴に努めている。チームで考え本人の思いが汲み取れるように意見交換をしている。	入居時のアセスメント、家族からの情報、日常会話の中から思いや希望・意向の把握に努めている。把握した情報は職員間で共有し、思いや希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際はご家族よりこれまでの暮らしについて話を伺い、また入居前に訪問等行いご本人からも話を伺っています。必要時にご利用されていた事業所に情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、昼のバイタル測定で全身状態の把握をして、本人のペースで過ごして頂くようにしている。申し送り簿で夜間の様子等申し送りをしている。全体的にはあるが朝のあいさつ時に様子を観察している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との話し合いで、要望を聞き計画に反映できるように努めている。職員も積極的に意見を聞きケアに生かしていけるようにしている。日々の介護記録に本人の言葉を記入したりして本人がどのように過したいか分かるようにしている。現在新型コロナウイルス感染予防対策の為、面会は制限されており、本人の様子をご家族へお伝えして、要望等について伺うようにしている。	日々のケア記録に本人の言葉で記録する事で、本人の思いや意向の把握に努め、毎月のケア会議において担当者が中心となり、情報を共有し意見交換を行っている。介護計画は本人・家族の意向、主治医や職員の意見をふまえ短期6ヶ月、長期は1年毎に見直し、状況に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している、	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別にわかりやすい文章で記載している。ご本人の様子がわかるように心掛けている。本人の話した言葉等で気持ちが分かるように記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内に病院や老人保健施設があり、身体状況に応じ病院受診や認知の状態の変化・要介護度などで特老等入居者様にあった居場所の検討を話し合っている。また訪問看護を週に1回（健康管理）サービスを受けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容店は近所の理容店の方が来てくださっている。歯医者も近所の方が必要に応じ往診して下さって、昔なじみの方との関係を保ちながら支援行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内のかかりつけ医に定期往診や体調不良時受診している、歯科は往診等のサービスを受けられるようにしている。遠方への受診はご家族の協力も得ている。現在は新型コロナウイルスの感染予防対策により職員が病院受診対応を行っている。	入居前からのつながりもあり同敷地内の母体医療機関が主治医となっており、月1回の往診、状況に応じて随時往診が受けられる環境となっている。他科受診は家族の協力をお願いしている。現在は感染症対策で職員が対応している。週1回の訪問看護と24時間連携体制が整い適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	同敷地内の病院の外来看護師、訪問看護師（週1回の健康管理）に相談し適切な受診看護が出来る環境にある。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	医師の情報提供やホームの看護サマリーなど本人の日常の様子が分かるようにしている、又入院中は様子伺いに行ったりと医師・看護師より本人の様子を聞く事が出来るよう関係作りが出来ている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	急変時の対応や救急蘇生法などホーム内での研修にて出来る範囲で行っている。	指針を基に契約時に説明して同意を得ている。状況に応じて主治医からの説明を行い、本人・家族の意思確認をして、法人全体で意向に沿った対応を行っている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	救急時のマニュアルにそっての対応を実践できるようにしている。ホーム内での内部研修・感染予防対策の研修は防護服の装着研修を行った。AED設置。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を自主訓練で行った。コロナ禍で防災訓練に地域の方の参加は依頼できなかった。自動火災報知機やスプリンクラー設置等設備も完了している。</p>	<p>年2回、内1回は消防署立ち合いで昼夜想定での総合避難訓練を実施している。通報システムやスプリンクラーを設置、緊急連絡網がある。法人内の協力体制や地域の協力体制も整備している。防災頭巾の準備、法人で備蓄は3日分、発電機の準備と事業継続計画（BCP）を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度に注意しながら対応を行っている。その日その時の状態を観察し対応を行うようにしている。介護目標にして支援している。	マニュアルを基に研修計画に沿って定期的に研修を実施している。日ごろから言葉遣いや支援の対応について研修してケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のやり方を見てから声かけし希望を伺うようにしている。また入居者様が自分で自己決定できるよう声かけ・表情や口調に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常より家族に自宅での過ごし方を聞き、興味を示されたらそれに沿って支援を行い、個々の体調や希望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に入居者の希望される理美容室へ行くようにしており、起床時や入浴後は髪を櫛でご自身で梳いて頂いたりしている。衣類も本人の好みを聞き選んでもらっている。。理美容院については新型コロナ感染予防対策の為、月1～2回来て頂いて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを声に出して読み上げたり、料理の内容を説明するなどして食事に楽しみを持って頂けるよう工夫している。	献立は法人栄養士が作成し旬の食材を取り入れ季節感のある食事が提供されている。嗜好調査を基に代替え食や食事形態にあわせて工夫している。行事食や誕生日食、梅シロップ作りなど食事が楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事とも摂取量をチェックし摂取量が少ない時には管理栄養士・医師に報告し代替食品（高カロリー栄養食）等の使用を検討するなどして対応している。量や硬ささも個人に合わせ支援を行っている。（普通食・お粥・刻み・ミキサー食等）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後に、利用者に付き添い入居者の方の状況に応じて介助・見守りを行っている。義歯の方は夜間預かり消毒を行っている。義歯の不具合、口腔内の違和感がある時は、かかりつけの歯科の先生に相談し、ご家族の了承のもと往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご自分でできることはして頂き不潔行為等ないように、排泄パターンに合わせて時間ごとに声かけを行う等の支援をしている。自立できるように支援している。（パッドやリハビリパンツの汚染確認を行っている）	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、日中は声掛けにてトイレでの排泄を支援している。夜間帯は個々の状態に合わせておむつ使用やパットの種類の検討、ポータブルトイレ使用等、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄自立の方の排便確認が取れないときは、職員間で報告、連絡を密に行っている。排便がない方は運動、水分補給を促し、腹部マッサージを行う等の支援を行っている。（水分・排尿・排便チェック表を用いている）主治医に相談をし内服薬を処方してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望を聞きお湯加減は調節している。体調に合わせて対応している。基本は週2回の入浴だが希望者は毎日入浴も可能である。現在、入浴拒否の方はいない。	入浴は週2回、月曜日から土曜日まで実施している。本人の希望で湯加減や入浴時間を調整している。拒否の場合はタイミングを見ながら声掛けし、工夫してシャワー浴や足浴に変更したり、個々に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を取り入れ、昼夜逆転にならないように支援している。不眠が見られた際は、暖かい飲み物を勧めたり話し相手になる等して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から定期薬の説明書を頂いて確認できるようにしている。変更があった場合は口頭と連絡帳の両方で確認し、職員全員が共有できるようにしている。症状の変化時は記録・報告を行っている。服薬管理は二人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクや軽作業（洗濯物たたみ）など本人に確認を取りながら、参加して頂き本人の好まれる活動を勧めて気分転換を図って頂いている。ドリンクバーや食べたり飲んだりを自由にできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>現在、新型コロナウイルス感染予防の為、外出支援は行えていない。敷地内の散歩、外気に触れる機会（時間）をできる限り行うようにしている。</p>	<p>コロナ感染防止対策で現在は外出支援は自粛している。天気の良い日には敷地内の散歩や外気浴・医療機関受診後にミニドライブで気分転換を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、支払い等について直接入居者の方が行うことはしていない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話はあまり自らされる事はないが、ご家族からかかってきてお話をされる事があり、年賀や暑中見舞い等のやり取りはしておられる。携帯電話持参の方もいる。オンライン面会も希望されるご家族には対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の物や花を飾り、季節を感じて頂けるよう支援している。ホーム内、居室は明るく必要に応じてレースやカーテンにて明かりを調整し室温も声かけしながら調節しており、湿度も空気清浄機や加湿器などを利用し快適に過ごして頂けるようにしている。車いすの方がローカや居室内でご自分で反転、移動出来るようにしている。</p>	<p>共用空間は広い廊下で窓が大きく明るい雰囲気である。壁には季節の手芸作品や塗り絵が飾られ、リビングにはテーブル・椅子・ソファを置き、畳のスペースもあり、個々に好みの場所で過ごしている。エアコン・加湿器・空気洗浄機で換気と合わせて快適に過ごせる環境となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同スペースでもご自分の椅子を用意して頂き、居間から庭が見え、のんびり過ごせるよう配慮している。食堂やリビングなどで気の合った入居者様同士で会話を楽しんでいる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使っていた物を持ってきていただいたり、整理整頓、片付けも入居者と職員とで行う等して、本人の希望に沿って居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	<p>居室にはベッド・エアコン・クローゼットが備え付けで、掃き出し窓で明るい。椅子やテーブル・家族の写真・位牌・遺影等、それぞれが使い慣れた品物等を持ち込み居心地よく過ごせる環境となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室、廊下に手すりが設置してあり、安全に歩行できるようにしてある。自分の部屋やトイレの場所が分かるように名前や張り紙等にて工夫してある。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない